

的外

みのる法律事務所
令和7年7月第423号



みのる法律事務所
弁護士 千田 寛
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL:0191-23-8960
FAX:0191-23-8950

いなべん だべんく
田舎弁護士の駄弁句 (191)



楽しんで 楽しませては 楽しんで
最高でした 生き方名人



令和7(2025)年7月1日
あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

自分が楽しんで他人を楽しませ、他人を楽しませては自分が楽しむという生き方の名人が亡くなったとの報に接しました。残念無念の一言です。

それにしても生き方の名人でした。生き方を教えてもらいました。『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです』という『田舎弁護士の哲学』の生みの親とも言うべき方でした。

上野倫理法人会元会長、東京歯科大学元講師、日本歯科医師会元副会長などの役職をなされ、写真、声楽、将棋などなどの世界でもプロに負けない実績を上げられた遠藤隆一先生の死を知り、すぐにこの駄弁句が浮かびました。

自分が幸せになり、他人を幸せにする生き方の名人でした。人間はどう生きるべきかという問題に対して、ご自分の行動で、その答えを示してくれました。生き方の名人であり、生き方の師です。

師の教えを一人でも多くの人に広めることが、師に対する恩返しと思い、遠藤隆一先生の生き方を広めていきたいと思えます。

先生のことは、先生がお元気であった令和4(2022)年5月に『人生100年時代の年寄りの生き方』シリーズの中の『人生快なり』という駄弁本で紹介していましたが、この事務所便りに同封し、この事務所便りを読んで載っている仲間に、事務所便り仲間であった先生のことを知らせて、先生の御冥福を祈ります。

やりました やりたいことを やれました

よかったですね ほんとよかった



令和7(2025)年7月1日

あおぞらうきよのすて
青空浮世乃捨

先生は時には、「男はノム、ウツ、カウをしないでは人生は楽しめない」などと語っていましたが、「ノム、ウツ、カウ」だけでなく、勉強もし、研究もし、人を指導し育て、仕事をし、社会奉仕をし、写真集を出し、歌を唄い、将棋を指し、他人を楽しませ、自分も楽しみ、やりたいことを全てやりました。何をやっても超一流で、名人の域に達していました。

よくやったと思います。よくやれたと思います。特別無理する様子はなく、何事も楽しそうにやられました。ものすごいことだと思います。そのやりとげたことを知っている身としては、「すごい」という思いと、「ほんとうによかった」という思いです。

「先生のように生きたい」と願うばかりです。先生のお姿を思い出しますと、特別な努力はしていないように見えたが、何事に対しても一生懸命で何をやっても超一流でプロ以上の力量があり、世の中よりその力は公認されていました。努力している様子を見せずに、他人が真似のできない努力をするところが先生のすごいところでした。

無意識に呼吸はしていますが、呼吸を止めたら生きてはいられません。先生の生き方は無意識に呼吸をしているように自然にやりたいことをやっていました。ですが、水鳥のように水の中ではいつでも「自分を幸せにし、他人を幸せにしてやる」という努力を他人の見えないところで続けておられ、それが無意識にできるようになった仙人のような方だったのです。

先生には、そのような生き方を教えてもらいました。先生を見習っているうちに、自分も呼吸するように無意識のうちに駄弁本を発行できるようになりました。先生を見習って生きているうちに、この事務所便りは35年3か月間、一回も休まず発行できました。駄弁本は約200冊を発行できました。

ここまでやれたのは先生のおかげです。先生の訃報ふほうに接し、ことばが出ません。ただ残念です。

哀悼の辞に代えて、

『人生快なり ー遠藤隆一先生・房子先生御夫妻の生き方ー』の
紹介と謹呈

前二句の駄弁句で詠みましたが、遠藤隆一先生の訃報に接しました。心から哀悼の辞を述べさせて戴きます。遠藤隆一先生と房子先生御夫妻から、東京上野の倫理法人会のイブニングセミナーの講師に招かれてから親族以上の深いお付き合いをさせて戴いていました。

先生御夫妻は、私達夫婦が講演などのために上京する度に、講演を聴いてくれた後に、必ずと言っていいほどドライブに誘ってくれました。東京近郊の珍しい所に連れて行っては、その土地の食事や特産品を教えてくださいました。

車中では、会話を楽しみ、人生を語り合い、時に先生御夫妻の好きな音楽を楽しみました。先生御夫妻の講話を聴かせてもらうこともありました。大学教授で、プロレスラーで、イラストレーターでもある先生御夫妻の御長男遠藤隆行先生の講演を聴かせて戴くこともありました。

先生御家族とは親子兄弟同然のお付き合いをさせて戴きました。隆一先生は、令和7(2025)年1月12日に亡くなっていたのですが、房子先生も隆行先生もすぐには知らせてはくれず、亡くなった後も各地の珍しい物などを隆一先生の名前で贈り届けてくれたりしました。小生の多忙振りをいつも御心配して下さっていた隆一先生、房子先生、隆行先生の格別のご配慮を思うと涙が出ます。

幸いなことに、『いなべんの短編集』の中で『人生快なり』というタイトルで、遠藤隆一先生のことを述べていました。書き尽くすことはできませんでしたが、遠藤隆一先生の一面を述べてはいると自負しています。先生はこの駄弁本を抱きしめて棺に入られたという話を聞き、駄弁本でも書いてよかったと涙が出ました。

今回の事務所便りは、遠藤隆一先生への哀悼の辞に代えて、『人生快なり』という『いなべんの短編』を同封することにします。これを仲間であるこの事務所便りをお読み戴いている皆様にお読み戴き、この事務所便りをお読み下さった『的外仲間』であった遠藤隆一先生に思いを寄せて戴けたら供養となるような気がするのです。

本号は、遠藤隆一先生の死を悼^{いた}み、特別な企画となりました。平成 21(2009)年 8 月 16 日に、東京で講演した時に閉会の辞を語ってくれた遠藤隆一先生と房子先生の写真を転載します。素敵なお顔ではありませんか。『人生快なり』そのもののように見えますが、いかがでしょうか。遠藤隆一先生、ほんとうにありがとうございました。



遠藤隆一先生



遠藤房子先生

因みに、下のイラストは、遠藤隆一先生、房子先生のお顔を御長男の遠藤隆行先生が描いたものです。隆一先生と房子先生だけではなく描いた隆行先生の明るさと優しさも出ていると思います。いかがでしょうか。

